

令和5年度 第2回放送番組審議会 議事録

令和6年3月27日(水) 15時～ UCV本社で開会

【出席委員(五十音順、敬称略)】

臼井洋一 (坂城町副町長)

岡崎謙一 (岡崎酒造株式会社 代表取締役社長)

西田不折 (上田市サントミュージゼ館長、元上田市教育委員長)

花岡敏道 (元東御市教育次長)

堀内和子 (株式会社エフエムとうみ 代表取締役社長)

宮下俊哉 (真田山種月院長谷寺住職、NPO法人ほこほこネット理事長)

【UCV出席者】

代表取締役社長 母袋卓郎

取締役地域情報部部長 中村和己

地域情報部課長 春原裕佑

地域情報部課長 清水望和

地域情報部 柳沢博康

【委員からの主な質問・意見】

(1) 令和5年度下期の報告

●「おしごと探偵がゆく！」について

シリーズ通じて面白かった。

職場体験の機会はあるが、体験に行ける数は限られている。

放送は終わったが番組を見てもらうことで、子ども達のキャリア教育に一役買えると思う。

●制作番組の活用について

新型コロナウイルスの拡大により、地域の行事がストップした。

コロナ禍後、行事のあり方や段取りなどを忘れてしまい、復活に苦慮しているところもある。

過去の行事を放送することで、助かる人たちは一定数いると思う。

→UCVからの回答 再放送等、役に立てることはあると思う。ぜひ相談してほしい。

●L字放送について

L字放送が入ると画面に情報がいっぱいになり、文字が読み切れない。高齢者にも配慮を。

→UCVからの回答 表示された文字の流れるスピードを遅くすることから始めたい。

(2)令和6年度上期の計画

●制作番組について

昔の町や祭りの様子など過去の映像も持っているのはUCVの強み。
ただし、財産も使わなければ持っているだけで終わってしまうので、活用に期待する。
「誰に何を伝えるのか」は常に意識してほしい。

伝統芸能や文化芸術など文化面でのフィールドが増えるとありがたい。

(新番組「みちしるべ」について) 番組の特色は?これまでの例と比べてどうか。
→UCVからの回答 防災・減災について、公助だけでなく自助・共助にも注目したい。

(3)番組視聴 2024年3月1日 放送「若者たちへの伝言 後世につなぐ平和への想い」

- ・戦争の体験談は身に染みた。
- ・体験者の声を聞くのはこの数年が最後のチャンス。
若者が勉強し伝えていくのは重要。番組の切り口として素晴らしい。
- ・地域に飛行場や地下工場、企業疎開があった等、地元の人もわからなくなっている。
身近な話として伝わってきて意味のある番組だと感じた。
- ・身近な場所の話、映像、生の声があり、リアルに伝わってきた。
UCVが作る意味がここにある。
- ・体験者の声を聞いて、自分達で考えるきっかけになる番組になると思う。
- ・子どもたちが伝えていくのが「今しかない」と言ったところが印象的だった。
とても良い番組だと思うし、広く知って欲しい。
- ・学生たちが戦争を伝える取り組み、どこの中学校でもやってほしい。
- ・戦争の恐ろしさ、特に報道やジャーナリズムの世界で一番恐ろしいのは、
思想統一だと思う。自由をどのように認識しているかが非常に大事。
それに対してのトライということは核として持っておいてもらいたいと思う。
非常に大きな問題にアプローチしてもらった。

UCVより→学生たちはイデオロギーという概念がない。

だからこそ、訴えがより不特定多数の方の共感を得られると思う。

戦争が悪いとか訴えるのではなく、この地域に戦争があり、
どういうものだったのか知ってもらうことが一番重要だと思い制作した。

以上